

唐代ナリッジベースから見た禪宗

クリスティアン・ウィッテルン
(京都大學)

「唐代研究ナリッジベース」を構築するための準備作業が人文科學研究所において始まった。この計畫は唐代研究に関するあらゆる情報を総合的なデータベースにまとめるための技術と基礎データを用意することを目的とする。まだ開始して日も浅いため成果を十分な形で発表することはできないが、早期の段階で専門分野における問題意識とその對應を検討し、研究者の意見を取り入れることが重要と思われる。

現段階では中國の正史文獻がナリッジベースの主な柱の一つである。そこに描かれる禪宗のイメージと、禪宗文獻から得られる自己像とはかなり異なるという第一印象は誰しも抱くであろう。しかし一方で、兩者の記述する出來事は共通の文化的状況のうちに發生したのであるから、そこには何らかの種類の重なり合いがある筈である。

本稿では、唐代ナリッジベースがこうした問題に對應可能かどうか、そしてそのためにはどのような内部構造が必要となるかを検討してみたい。當然ながら絶對的な解答はないが、實驗的にどんな方向に進めばよいかということを目ざしてみたい。

Christian WITTERN クリスティアン・ウィッテルン

1962 年生

京都大學人文科學研究所助教授 Ph.D. (ゲッティンゲン大學)

主要著作 “Introduction to KanjiBase. A Practical Approach to the Encoding of Variant and Rare Characters in Premodern Chinese Texts” *Das ‘Yulu’ des Chan-Buddhismus. Die Entwicklung vom 8.-11. Jahrhundert am Beispiel des 28. Kapitels des Jingde chuandenglu* “Buddhist Studies in the Digital Age” ほか多数